



福島県

森・川・海のつながりの中から“いのちの輝き”伝えよう

基にしたモデル的なプログラム	里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう
作成団体名	豊田市立西広瀬小学校
地域プログラム化メンバー	NPO法人いわき環境研究室
実証協力校等	いわき市立勿来第二小学校、いわき市立上遠野小学校 ほか（いわき市）

SDGsの要素	 
ESDの要素	     
能力／態度	     

● プログラムの概要

多くの流域を持ついわき市の学校において、それぞれの地域の環境に応じて環境学習を実践できることをねらいとして作成したものです。森・川・海など子どもたちが学習活動に携わるフィールド全てを「ビオトープ」として捉え、環境教育・学習を実施します。観察会では、自然環境の豊かさを実感し、森の整備活動では、森が生み出す水の役割を体得できます。ビオトープの学びは、すなわち故郷の価値を発見し、ふるさとへの愛情を育む活動であるといえます。この学びを発信し、森・川・海のつながりの中で、共に高め合うために、上流域の学校は中・下流域の学校と、中流域の学校は上・下流域の学校と、下流域の学校は上・中流域の学校と交流します。

●プログラムの目標

このプログラムの目標は、①環境活動を通して、いのちの尊さと神秘さに気付くと共に、ふるさとに生きる人々や歴史・文化にも関心を広げ、それらの価値を認識した上で、学校内外の人達と連帯して、いのちを大切に、ふるさとを守っていかうとする意欲と態度を育てること、②ビオトープの整備活動や観察学習を通して、聞く・話す力や共感・尊重する態度を育てること、③活動に積極的に参加し、学習活動の中で出会う様々な情報を良く吟味して考え、判断する力をつけること、④河川の上流域から河口域までの広い領域の中に住む者として、環境活動を将来にわたってどう行っていくのかを主体的、計画的に考える力と意欲を養うこと、です。



森で観察会をしました。



暮らしとの関係について考えました。



森のもつ役割について学びます。

●参加者の声

- 川にはたくさんの生き物がいることを知った。汚い水でも生きていける生き物もいるんだと思った。
- 川は私たちにとって一番大切なものだとわかった。

●プログラムの流れ

1 時間目	森・川・海の役割と恵みを知り、「水の循環はいのちの循環」の意味を話し合う。
2～5 時間目	身近な里山で観察会と間伐体験をしよう
6・7 時間目	川はどこから流れ、どんなはたらきをするのか調べてみよう
8・9 時間目	川の環境について調べ、元気な川をとりもどすためにどうしたらよいか考えてみよう
10～12 時間目	河口・砂浜の環境を調べてみよう